

## 会報

## 大学生協友の会

2024年2月1日  
第41号  
大学生協友の会発行



〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111  
E-mail: univcoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp//>

## 2023年12月会員親睦会開催報告

去る十二月二日(土)大学生協杉並会館にて二三年度会員親睦会が二十七名の参加で開催されました。

会員親睦会は、十五時より大学生協会館五階ダイニングルームにて伊野瀬幹事長の開会のあいさつのあと、病氣加療中の中森専務理事に代わり、全国事業連合樽井専務理事から「これからの大学生協づくりに向けて」と題して、以下のように大学生協の近況報告がありました。

「現在、会員生協の利用水準は八割程度の回復となった。初年度の共済加入は十五万人を維持、地域生協との「新社会人コース」推進が進み、約三・六万人の加入者数となった。

共済連残余財産分配を受けて、剰余ベースで二二年度十四億円から二二年度九十二億円に増加、赤字の会員数二二年度八十五会

員から二二年度四十八会員に減少した」

「組織活動面では、コロナ禍



の制約が緩和されたことで回復傾向にあり、最盛期一万人を超えた学生委員数は、六千人台か

ら八千人台となった。活動空白期間の影響や学生生活の変化に対応した多様な活動スタイルの推進が求められている」

「この間大学生協連帯事業の再編として図書サービス・コープイン京都などの全国事業を終了させ、今後、構造悪化する書籍事業海外旅行事業等、事業政策の再整理が求められるとともに、ナショナルセンターとしての大学生協連の必要な機能は維持するための構造改善の実現も大きな課題となっている」

「今後の大学生協の改革として、①存在感を高め、大学とも連携し、組合員が共感できる生協づくり②組合員自身がオスメする商品・サービス提案活動づくり③中期ビジョンを指針とし持続可能な社会に向けた役割づくり」を進めたいと決意を語りました。

その後、金田豊さんの乾杯のあと、参加者からの近況報告をうけて、懇親を深めました。宮寺さんからの中締めのあいさつを受けて、散会となりました。

元大学生協連常務理事 稲川 和夫さんインタビュー①  
「協同活動と人間賛歌、この道を歩んだ我が人生に悔いなし」

稲川和夫さんの連載にあたって

草創期の一九五五年の東大生協入協に始まり、七三年「ならコープ」生協の設立を経て、その後定年退職までの三五年間に渡り、関西地域を含む十の大学生協と地域生協で活動された稲川さんの生協人生を振り返るインタビューをまとめた記事を掲載します。

このインタビューは二〇一五年十二月に行われました。稲川さんは、現在九〇歳で、まだご健在です。

コロナ禍を背景に大学生協の経営は、大学生協の歴史の中でも最も厳しい事業環境のもとにあり、組合員である学生と教職員が主体にした大学生協を再生する取り組みに傾注している最中です。大学生協の草創期に活動された先輩が次々物故される時代を迎え、現職の大学生協の役員にも是非読んでほしいと思います。掲載致します。



私は、今年の二月で米寿（八八歳）を迎える高齢者です。記憶力、判断力、視力、聴力が衰え、記憶違い、事実誤認があるかも知らず、手元に資料もないこともあり、正確さに欠ける部分があるうかと思う。ご容赦頂きたい。

【少年期～青年期など学生の頃】

一九八二年栃木県生まれ、少年期は農村で育ち、進学のため上京し、親父の家から都立上野

中学（現上野高校）に入った。少年時代は支那事変、中学の時は太平洋戦争となり、中学後半に軍需工場で動員され、終戦の時は勤労動員で丹沢の山でロケットの燃料実験上で敗戦を迎えた。

帰省後生家で二年ほど生活し、再び進学のために上京し新制高校三年に編入学後、中央大学に入学した。しばらくは、授業に出たが、当時は戦争が終わって間もない時であり、戦犯の摘発、軍隊の解体、財閥の解体、治安維持法などの廃止が進められる一方で、平和、民主主義、生活を守れとの世論と市民運動が全国で活発に繰り広げられていた。学生と若者がその中核を担っていた。

私は、自治会活動に熱中し、授業などには出なくなってしまう。当時の学生運動は、労働者、農民、市民などの運動と連帯して広く行動を行っていた頃であった。食糧問題に絡んで、政府の手による農民からの米の強制供出に伴う農民運動が大きく発展して、当時マスコミに取り上げられた茨城県の常東農民組合の活動に強く惹き付けられた。ボランティアとして常東地域に行

き、活動の実態、政策、成果、問題点などを農民と話し合い、調査支援活動を行った。その後東京の三多摩地域の山村労働者の実態調査、山林地主の山林支配とその構造の調査、横田基地の騒音問題、自衛隊基地問題をはじめした平和運動などの支援活動を行っていた。しかし長期間にわたる貧困な生活環境のために体調を崩し休養せざるをえないことになった。

【東大生協、早大生協、法政大生協の頃】

一九五五年の春頃だった。東大赤門近くに小さな居酒屋があった。若い未亡人で愛想が良く、店にくる学生と若者に人気があった。ここで東大生協の幹部だった藤川さんと知り合い、東大生協に入協することができた。ここが生協との出会いの場所となった。当時東大生協は、全国に先駆けて専従の常勤役員制を確立したばかりの頃であり、文科系校舎の地下にあった第一食の調理見習として採用された。（つづく）

## 今井隅田さんを偲ぶ

斎藤嘉璋(元早大生協 東京  
事業連合専務理事)

今井隅田さんが昨年十月に亡くなられました(享年九二歳)。今井さんは一九五二年東大生協に入り、六十年教育大生協、六三年早大生協、七〇年東京事業連合、七三年大学生協連、八八年都民生協と多くの生協で役員としてその発展に貢献されました。訃報を受け、東大生協時代に一緒にいた稲川和夫さんに伝えると「彼は私と同じで“助っ人”稼業の生協人生であちこち職場を変わったが、どこの生協ということなく大学生協全体に貢献した人だ」と話されました。稲川さんは「彼の第一の業績は大学生協の書籍事業を軌道に乗せたことだ」と言われたが、取次や書店とのトラブルを「定価販売―別途割り戻し」など「書籍取り扱い三原則」で克服、大手取次をふくめ大学生協連としての共同仕入れができるようになった(大学生協連収益貢献も)のは今井さんの尽力によるものでした。また、書籍の「正味(原価率)」の統一などで書籍部業務の効率化が図れるようになったのも今井さんの業

績でした。

私は一九六九年に早大生協の専務となり東京事業連合の発足に関わりますが、「単一化」＝人事権の事業連合への統一などを主張する法政生協とそれに反対の東大生協との論争で、私は今井さんの事業経営の実態に基づいた助言に助けていただきながら早大生協としての主張を述べました。結果、幹部人事等につき必要な「提案権」は認めるといった基本が決まり、単協業務の事業連合への統合内容と分担金の計算基準なども今井さんの主導で決まりました。東京事業連合は七〇年、東大、慶応、理科大、早大で発足しますが、法政生協は参加を見送りしました。早大では六九年、七〇年と全共闘運動の流れからの暴力学生協の「紛争」がやまず、一方で地域生協支援のための人事派遣などの支援が六九年の東京生協から戸山ハイソ生協に連続して続きました。そんななかで早大生協の事業上の業務は東京事業連合の今井さんなどに助けられるところ大でした。私自身、七二年から事業連合の専務に就任しますが、連帯上の重要問題や投資等に係る事項以外の事業上の事項は今井さんや伊藤久美栄さんにお任せし、戸山ハイソ生

協支援などに時間をとられていました。

今井さんは、東京事業連合のあと大学生協連の常勤常務として、田中専務のあとの高橋専務を補佐し、政策立案や人材育成などに携わり、渋谷と京都のコープ・イン建設なども担当しました。大学生協連では共済、保険の担当(別会社)もされ、その関係で最後の仕事は都民生協(現コープみらい)のサービス事業部長でした。

今井さんとは年金生活に入ってから八王子で一度お会いしましたが、その時医療生協の利用者の送迎サービスをやられていたと聞き、最後まで生協に関わる今井さんに感心しました。今井さんは長野・諏訪出身ですが、私は伯父が居る諏訪にはよく遊びに行っていたので、今井さんや同じ長野出身の山岸健次・啓介兄弟、上条直保・日出男兄弟、山岡雅人さんなどには親しくさせていただきました。今井さんとはこの同郷人のことも時々話題にしましたが、皆さんが亡くなるか連絡が取れなくなり寂しい限りです。ご冥福をお祈りいたします。

△追 記△今井さんに先立ち、早大生協関係の先輩では昨年五月に伊藤次栄さん(享年八十八歳)が、一昨年(二〇二二年)には小林敏男さん(享年九〇歳)、山岸健次さん(享年八九歳)が亡くなれました。どなたも私および早大生協がそれぞれ大変お世話になった方でしたが、コロナ禍でもあり葬儀なども身内で行われ、葬儀参列など弔意と感謝を述べる機会がなく申し訳なく思っています。

小林さんは学生厚生会活動から早大生協、練馬生協、大学生協連で活動されましたが、伊藤さん、山岸さん、今井さんともに東大生協出身で、早大生協だけでなく、広く大学生協の活動に貢献されました。今井さんをはじめ四人の先輩は、早大生協や大学生協連が法人格を持たない“協組”時代Ⅱ年代の大学生協の創成期に苦勞され、六〇年代に発展期の基礎作りをし、七〇年代にリーダーシップを発揮されました。年齢的には昭和一桁の先輩で、田中尚四さんをはじめとする私たち昭和二桁組は、その指導、支援のおかげで六〇年代以降の大学生協の発展、さらにその発展を背景にした地域生協支援など生協運動全体の発展を実現できたと考えます。ここに改めて感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。



## 私のボランティア活動！ 刺激と楽しみをもらって

山崎 敏夫

大学生協は千葉大―工学院―東京学芸大を経て、地域生協に移り現コープみらいを二〇一五年に退職した後のボランティアとして千葉市科学館と朗読会の取り組みを今も続けている。

一つ目の千葉市科学館は、愛称「Qiball」（きぼーる）と呼ばれる複合施設の中にあり、二〇〇七年十月二十日に開館し、自然科学、先端技術、地球環境、宇宙などの科学を分かりやすく展示。百四十もの体験展示、直径二三mの大型プラネタリウムなどがある。新しい参加体験型の科学館として、ワークショップ



やボランティアによる工作体験を行っている。

私が始めた二〇一五年のボランティア登録者は五百名程で、学校関係と理系会社のOBが圧倒的。私は、展示説明や毎月変わるワークショップの他に、「バランストンボ」の工作体験を行っている。小学生や未就学児が参加できるように厚紙をハサミで切り抜き作成する。羽根と頭部分を折り、支点となる口先を指の腹に乗せると、トンボは落ちずユラユラと前後左右に揺れる。子供たちのハサミの使い方は様々、私は手を出さず指を切らないよう声掛けとアドバイスだけ。子供の力で完成させる。指に乗った時の喜びはひとしおで、目が輝いている。子供たちの喜ぶ姿を見て私もパワーをもらっている。

科学館の魅力は、大人が楽しむ科学教室もありいつまでも「科学を学べる」こと。何より、科学館を通じて若い科学者が育つことを願っている。

もう一つのボランティアは



「朗読会」で、講習会に参加し、公民館の隣の保育園児二十―三十名の前で大きな絵本の読み聞かせをした際、講師の先生から朗読サークルのお誘いがあり、参加を決めた。朗読会の活動の

メインは、視覚障害者などに定期発行の会報や様々な情報をCDに録音し届けること、学童保育やケアハウスや特養などに出掛けて、小説や絵本、紙芝居などを読むことも。私も特養などに

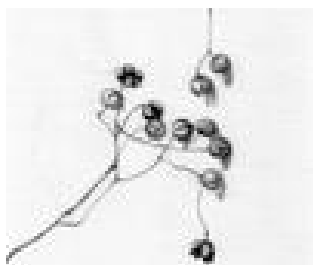
参加し主に紙芝居を行ったが、聴くだけでは飽きるもので、皆が参加できる題材を選んだ。花火の音を声に出してもらおう「花火」や歌ってもらおう「愛染かつら」など年齢に合わせて準備。しかし、コロナの影響で感染を懸念して外部からの受け入れは今も中止になったままで、早い再開を期待している。加えて、千葉市の公

報「声のちば市政だより」の収録にも参加し、目の見えない方達にCDを届けている。

定期的に読みの勉強会があり、色んなジャンルや時代の作品も読み、今は「源氏物語」の原文にチャレンジしている。現代文と違い悪戦苦闘しながら、次第に時代背景や読み方にも慣れ、心地良さを感じている。黙読とは違い声を発する事のメリットは色々ある。

私にとってボランティアは、学ぶ事が多く日々勉強させられ、刺激と楽しみをもらっている。

また、趣味で始めた「手打ち蕎麦」は今も美味しい蕎麦づくりをめざして研鑽している。



## 多摩川でのボランティア活動を楽しんでいます

そもそもの始まり

流田 克己

東大生協を退職後、自身の健康作りのため多摩川の土手を毎日散歩することを日課にしました。土手散歩のスタート地点は多摩川から二ヶ領用水への取り入れ口にある二ヶ領せせらぎ館



写真右が下流で東京湾、上が東京都狛江市、中央右が二ヶ領宿河原堰と多摩川、下の建物が二ヶ領せせらぎ館、左下が二ヶ領用水です。

(以下せせらぎ館)でした。多摩川の散歩が続いた理由が別にもあって、この地域の河原には野鳥の飛来が多く、とりわ

けカワセミを一年中見ることができました。そのカワセミに魅入られてカメラを首からぶら下げての散歩が始まり、このことで毎日の土手散歩も長続きし現在も継続中です。

### 受付当番になって

せせらぎ館でイベントのお手伝いを始めてから、受付当番の補充が有ったので当番に入り、展示物や水槽の魚の説明と、望遠鏡で宿河原堰の上に止まっている野鳥の説明などを来館者に行いながら自分自身でも多摩川の自然環境に興味を持ち始めました。現在では、事務局の仕事も手伝い会議運営や企画提案など、大学生協での仕事と同じ様な作業を任されるようになりました。今回は現在最も力を入れている環境と生物多様性に係る活動をお話します。

### NPO法人の設立過程について

せせらぎ館の運営は、川崎市から業務委託されたNPO法人多摩川エコミュージアムが行っています。また、せせらぎ館は多摩川の河口から二十六キロ上流

にある二ヶ領宿河原堰の管理棟内あり、この施設には、近隣の自然環境を説明する展示物が設置されています。その設立趣旨は川崎市が市内のボランティア団体と協議して作った多摩川エコミュージアムプランによるもので、市民が自らの地域の環境を考え、自らの力でよりよい環境を創りあげていこうとするものです。現在でも、せせらぎ館周辺の自然や環境と調和するさまを展示して保全する活動を行っています。

### 生物多様性の保全と外来生物の防除活動

せせらぎ館の環境保全活動は設立されてから、クリーンアップ活動(ゴミ拾い)として二十年以上継続されています。昨年から、環境活動として特定外来生物(植物)の防除活動も毎月実施しています。最近、多摩川河川敷の植物相に変化が見られ、希少種や在来種の中で見当たらない種が有る事が調査活動で明らかになりました。この自然環境の悪化要因は、特に特定外来生物(植物)の増殖に伴い生

物多様性が喪失している事によるものです。

危機を感じた私たちは、昨年四月から、周辺のアレチウリやホテイアオイを中心に防除活動を開始しました。結果、当該エリアでは近年生息が確認できていなかった希少植物・絶滅危惧植物などが見つかるとなり、手を入れれば復活できることがはつきりしました。

### これからの活動について

私もNPOの仲間とともに、上記の活動を継続しながらそれらの実績と成果をまとめた出版物の作成、主に地域の方を対象とした観察会や講演会、小学生向けの環境学習による普及啓発SNSや配布資料を活用した広報活動を通じて、賛同者の輪を広げ多摩川の生物多様性を保全し、次世代へ繋げ、広げて行く事を、多摩川エコミュージアムプランの継承として取り組んでいます。



## 第二回千葉大生協OB会を開催しました

去る十一月十一日、千葉大生協第二回千葉大生協OB会を開催しました。

会はずでに大学生協退職者とともに、千葉大生協より移られた大学生協在籍者の合計二十二名が参加して千葉大生協食堂ホールにて開催しました。この会は第一回OB会を二〇一九年八月三十一日に学外で開催したが、第二回は定年退職者だけでなく、千葉大生協に在職されたことのある方に対象を広げ、多くの方にお声がけすることにしました。残念ながら第一回開催以降はコロナ禍となりその開催を見合わせておりましたが、ようやく第二回OB会を開催することができました。

今後も千葉大生協経験者の親睦と千葉大生協の応援の場として年一回の開催を目指していきます。

**皆さんのOBOG会、  
懇親会の開催状況や  
呼びかけをご紹介します  
ださい**

☆400文字＋写真1枚程度

＜宛先＞友の会事務局

uni vcoop@uni vcoop. or. jp



## 二〇二三年度第二回 大学生協友の会幹事会報告

開催日時…二〇二三年十二月二日(土) 十四時～十四時五十分

場所…大学生協連 杉並会館 地下一階会議室 一〇三

出席…伊野瀬 岡安 宮寺 馬場 説田 藤村 釜田 塩谷 平田 茂

垣 柴田 中村 齋藤 宮田 大澤 大久保 (以上幹事)

古越 和知 (以上会計監査)

欠席…薄葉 倉橋 山崎 和久井 (以上幹事)

協議事項

一、大学生協友の会会員動態について

二、二〇二四年友の会総会特別企画検討について

三、友の会第四十一号会報(二〇二四年二月一日発行) 計画について

四、二〇二三年第十二回会員親睦会当日運営について

五、二〇二四年度大学生協友の会総会

・開催日…七月十三日(土) 開催時刻は次回幹事会で決定。

六、二〇二三年第会員親睦会日程

・開催日…十二月七日(土) 十四時開会 幹事会十三時開会  
七、次回(二三年度第三回) 幹事会(単独開催) 開催日時について

・開催日…二〇二四年四月六(土) 十五時開会 終了後懇親会